

第 18 回学会報告記

(第 65 回アメリカ心臓病学会学術集会 ACC 2016)

2016 年度米国心臓病学会（ACC）学術集会が、2016 年 4 月 2 日から 4 月 4 日の期間でアメリカ合衆国イリノイ州シカゴにて行われました。ACC はヨーロッパ心臓病学会（ESC）や米国心臓病協会（AHA）と並び、循環器領域の数多くのガイドラインを提唱し、世界へと発信している世界水準の学会です。

1 学会会場

日本からシカゴへは直行便があり、成田国際空港からオヘア国際空港まで約 11 時間 30 分のフライトでした。今回の学会は、さらにそこから車で約 1 時間移動したところにある米国最大の総合コンベンションセンターの McCormic Place（マコーミックプレイス）で行われました。



2 発表その他

当院からは下記の発表をさせて頂きました。

飯田 修 医師

The Characteristics of In-Stent Restenosis After Drug Eluting Stent Implantation in Femoropopliteal Lesions and 1-Year Prognosis After Repeat Endovascular Therapy for These Lesions

石原 隆行 医師

Comparable 2-Year Patency Rate Following Subintimal and Intraluminal Drug-Eluting Stent Implantation for Femoropopliteal Chronic Total Occlusion

冠動脈領域では、新規の抗血小板薬やステント内再狭窄病変に関する発表が多く見られました。またその他の領域としては、弁膜症に対する血管内治療の発表も多く見られました。今後本邦においても、この弁膜症への血管内治療がさらに広がっていくことが予想されます。

3 まとめ

学会を通じて世界中からの最新の知見を得ることができました。その得たものを日々の臨床の中で患者様に提供していきたいと思えます。